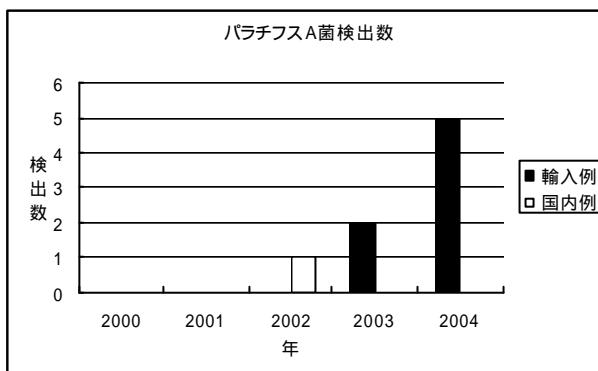
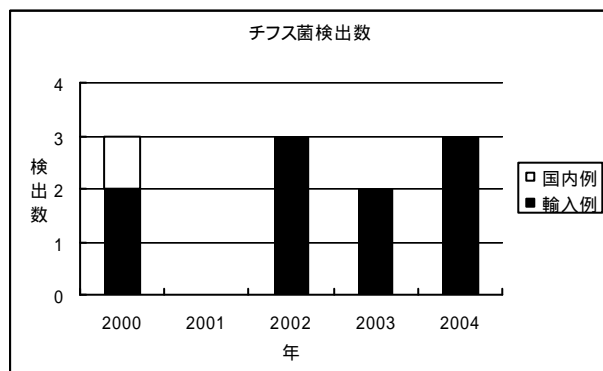


腸チフス・パラチフス

腸チフス・パラチフスは、それぞれSalmonella Typhi(以下S.Typhi)、Salmonella Paratyphi A(以下S.Paratyphi A)の感染によって起こる全身性疾患であり、感染症法では二類感染症として指定されています。S.Typhi、S.Paratyphi Aは、ヒトのみに感染し、患者または保菌者の糞便に汚染された水や食物を経口摂取することで感染します。そのため、その発生数はその土地の衛生水準に大きく影響され、世界中ではインドや東南アジア、アフリカを中心に、年間16万人の患者が発生し、6,000人が死亡しています。わが国では1990年代以降、両疾患合わせて年間100例前後の報告例があります。2000年から2004年にかけて県内で報告され、衛生研究所で確認された報告例は年間数例ずつであり、その大半が海外旅行者によるものです。



パラチフスの治療は、以前はクロラムフェニコールやアンピシリン、ST合剤等が第一選択薬とされてきましたが、薬剤耐性菌の出現によりわが国ではシプロフロキサシン等のいわゆるニューキノロン系抗菌薬が第一選択薬として使用されています。しかし、1998年以降国内においてニューキノロン系抗菌薬低感受性菌が出現し、その治療の障害となりつつあります。県内でも1998年以降、衛生研究所で確認したS.TyphiおよびS.Paratyphi A 31株中7株のニューキノロン系抗菌薬低感受性菌が確認されており、その動向には今後とも注意が必要です。今後とも原因追及のための検査へのご協力をお願いいたします。